

ITの力で未来を拓く ～地域おこし協力隊から 始まる、新たな教育と 挑戦のカタチ～



鎌田 崇弘 (かまだ たかひろ)

1990年生まれ、兵庫県出身。高校卒業後、ライブハウス・スタジオ運営会社に勤務。その後、ワーキングホリデーでオーストラリアに2年間滞在。帰国後は妻の故郷である札幌市へ移住。Web制作会社での勤務を経て、2024年4月より壮瞥町地域おこし協力隊に着任。

【協力隊として壮瞥町に移住したきっかけ】

2024年4月、私は「地域おこし協力隊」として、札幌市から壮瞥町へと移住しました。以前は札幌のWeb制作会社に勤務し、エンジニアとして、都会で淡々とした日々を過ごしていました。



壮瞥公園の風景

移住のきっかけは、ライフスタイルの変化です。リモートワークの普及により、場所を選ばない働き方が可能になる一方で、都市部での生活はどこか閉鎖的なものを感じ始めていました。そんな折に「地域おこし協力隊」の存在を知り、かつてから好んでいた洞爺湖エリアへと目が向きました。自身の故郷である兵庫県宍粟市の風景に似た、山々と緑に囲まれた壮瞥町の環境、そして何より「火山のまち」という唯一無二の個性に強く惹かれ、当時入籍を控えていた妻の理解もあり、この地での挑戦を決意しました。

【ITスキルを地域の力に】

私のミッションは「まちの Reporter」として、町の魅力を多角的に発信することです。着任以来、主に三つの軸で活動を展開しています。

1. 情報発信の基盤整備

これまでの経験を活かし、SNSを活用した広報サポートや役場のWebサイト更新、デザインツールを用いた紙媒体の制作を行っています。その一環として制作した「壮瞥まるわかりMAP」では、単なる地図情報の提供に留まらず、実際に足を運びたいような視覚的な工夫を凝らし、町内の回遊性向上を目指しました。



壮瞥まるわかりMAP

2. 地域事業者のデジタル支援

町内の事業者様が抱える「Webサイトの情報が古くなっている」「新しくサイトを作りたいが、どこか

ら手をつけていいか分からない」といった課題に対し、制作や改修のサポートを行っています。地域の魅力が詰まった一次情報を、今の時代に即した形で発信し続けることは、産業の活性化において不可欠です。技術的な障壁を取り払い、地元の皆様の想いが正しく伝わるよう、身近なITの専門家として伴走しています。

3. 次世代へのIT教育

地元の小学生を対象としたプログラミングワークショップを開催。「Scratch Jr.」などのツールを用い、子どもたちが自らの手でデジタルコンテンツを創り出す喜びを伝えています。



プログラミング教室の風景

【子どもたちの自由な発想が教えるもの】

活動の中で、私自身が最も心を動かされるのは、子どもたちの驚くべき柔軟性です。大人は「正解」や「マニュアル」を求めて慎重に操作しがちですが、子どもたちは違います。彼らはのびのびと、まるで粘土遊びをするように自由に画面上のブロックを組み替え、私の想像を遥かに超えてきます。

プログラミングが思うように動かず悩んでいた子が、ふとした拍子に独自の解決策を見つけ、「できた！」と満面の笑みを浮かべた瞬間がありました。そのリラックスした、かつ集中した姿は、大自然の中で育つ彼らならではの強みではないでしょうか。彼らの自由な発想を、ITという道具を使って形にする手助けができることに、大きな達成感を感じています。

【技術が根付く土壌をつくる】

地域おこし協力隊の任期は限られていますが、退任後は壮瞥町への定住を考えています。

任期終了後は、リモートでのエンジニア職に復帰しつつ、西胆振エリアを中心にWebサイト制作やPR動画・写真撮影を行っていく予定です。さらに並行して、町内や近隣の児童を対象に「私塾（ITスクール）」を開校する準備を進めています。

これは単に操作方法を教える場ではありません。地方にいても最新の技術を使いこなし、世界とつながることができる力を養う場所です。これからの時代を生き抜く子どもたちにとって、ITは自らの可能性を広げる強力な武器になります。また、子どもたちだけでなく、地元の事業者の方々がITをより身近な道具として活用できるよう、気軽に相談できる拠点としての役割も担いたいと考えています。

【火山のまちのリポーターとして】

壮瞥町には、火山や洞爺湖といった力強い自然と、それらを理解し共存する温かな人々がいます。

私は「まちのリポーター」として、単に外側に情報を流すだけでなく、内側から新しい価値を創造する存在でありたいと願っています。ITという一見無機質な技術を、この町の豊かな土壌に馴染ませ、次世代の笑顔へとつないでいく。それが、私を温かく迎えてくれた壮瞥町への最大の恩返しになると信じています。



昭和新山と三松像